

令和 5 年 10 月の解説（週間天気予報）

【10 月の天候状況】

上旬は、北日本では、一時的に低気圧や低気圧通過後の寒気の影響を受けやすかったため、旬降水量は北日本日本海側でかなり多かった。6 日には発達した低気圧の影響で大荒れとなった所があった。東・西日本では天気は周期的に変わり、8 日から 9 日にかけて本州南岸を通過した低気圧の影響で、大雨となった所もあった。沖縄・奄美は、台風第 14 号や前線の影響などで曇りや雨の日が多かった。北・東・西日本で長く続いていた気温のかなり高い状態は、偏西風の南下により解消したが、日本近海の海面水温が顕著に高い影響を受けやすかった北日本では、旬平均気温は高かった。また、旬を通して暖かい空気に覆われやすかった沖縄・奄美では、かなり高かった。

中旬は、北日本では、旬の前半は移動性高気圧に覆われて晴れた所が多かったが、後半は北日本日本海側を中心に低気圧や上空の寒気の影響を受けやすかった。このため、旬降水量は北日本日本海側で多かった。20 日頃は北日本を中心に低気圧の影響で大雨となった所があった。一方、旬間日照時間は北日本太平洋側でかなり多かった。東・西日本では移動性高気圧に覆われて晴れた所が多く、旬間日照時間は東日本日本海側と東日本太平洋側でかなり多かった。15 日には本州南岸を通過した低気圧の影響で東日本太平洋側では大雨となった所があった。沖縄・奄美では、高気圧に覆われて晴れた日が多かった。気温は、北日本ではオホーツク海付近を進む低気圧に流れ込む暖かい空気に覆われた時期があったことや、寒気の影響が一時的だったため、旬平均気温は高かった。

下旬は、全国的に高気圧に覆われ、晴れた所が多くなり、旬間日照時間は全国的に多く、北・西日本日本海側と北・東・西日本太平洋側でかなり多かった。1961 年の統計開始以降、10 月下旬として、東日本太平洋側（平年比 156%）、西日本日本海側（平年比 157%）、西日本太平洋側（平年比 162%）では 1 位の多照となった。旬降水量は東・西日本太平洋側でかなり少なく、北・西日本日本海側と北日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。一方、一時的に低気圧や低気圧通過後の寒気の影響を受けやすかった東日本日本海側で多かった。北・東日本を中心に 27 日から 28 日にかけて大雨となった所があった。旬平均気温は、寒気の影響が一時的だった北日本で高かった。一方、寒気の影響を受けやすかった西日本で低くなった。東日本と沖縄・奄美では平年並だった。

【10 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 10 ポイント高い 81%でした。地方別の適中率では、すべての地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.4℃小さい 1.6℃で、東北を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.3℃小さい 1.7℃で、沖縄を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁 H P (予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【12 月の週間天気予報の利用にあたって】

12 月は、本格的な雪の季節の始まりとなります。北日本では雨よりも雪となる日が次第に

多くなり、天気予報では降水が雪となるか雨となるかが重要なポイントとなります。天気予報では、「雪」や「雨」という予報だけではなく、雪になる地域や時間帯の割合が大きいときは「雪か雨」、また、雨になる割合が大きいときは「雨か雪」と発表しています。これにより雪の可能性がわかりますので、雪への早期の備えに週間天気予報をご活用ください。